

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 3 年 5 月 6 日 (2021.5.6)

【公表番号】特表 2020-511269 (P2020-511269A)
【公表日】令和 2 年 4 月 16 日 (2020.4.16)
【年通号数】公開・登録公報 2020-015
【出願番号】特願 2019-552106 (P2019-552106)
【国際特許分類】

A 6 1 B 17/3205 (2006.01)

A 6 1 B 17/22 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/3205

A 6 1 B 17/22

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 23 日 (2021.3.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者の脳から病変を除去する装置であって、
管腔と、患者の頭蓋骨の穴を通して病変部位に前進するように構成された遠位端と、を有する管状プローブシャフト；

前記管状プローブシャフトの管腔に配置された螺旋状ワイヤ；

前記螺旋状ワイヤに取り付けられた前記管状プローブシャフトの遠位端に設けられ、かつ前記病変を切断または摩耗させて病変断片を生成する要素；および

前記管状プローブシャフトの管腔の近位端は真空源に接続されて、前記管状プローブシャフトを通して前記病変部位から前記病変断片を吸引するように構成される、装置。

【請求項 2】

前記螺旋状ワイヤが、前記管状プローブシャフトの長手方向軸に沿って圧縮可能である、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記螺旋状ワイヤが、詰まりを防ぐ、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記螺旋状ワイヤが、回転を通して、前記管状プローブシャフトを通して前記病変破片を近位に輸送する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

前記要素が、前記螺旋状ワイヤによって回転または回転振動されるように構成されたブレードを含み、前記ブレードが、前記管腔の遠位開口部に配置されている、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

前記ブレードが、前記管状プローブシャフトの長手方向軸と位置合わせされた平面ブレードである、請求項 5 に記載の装置。

【請求項 7】

前記平面ブレードが、遠位切断エッジと、前記遠位切断エッジから前記平面ブレードの基部まで先細になっている 1 対の側部と、を有する、請求項 6 に記載の装置。